

【目的】 「徳地アドベンチャー教育プログラム」(以下、TAP)の実習や講義を通して、チームビルド等の人間関係の構築や自己肯定感の向上を目的としたグループワークの指導者に求められる知識・技能を習得する。

また、本指導者養成事業は弊所の研修支援団体へのTAPの外部指導員の育成のカリキュラムの1つとし、外部指導員確保も同時に目的としている。

【開催日】 令和5年1月7日(土)～1月9日(月・祝)

【参加者】 青少年教育施設指導者等 14名(申込者数17名)

【プログラムの内容】

11	10:00	12:00	13:30	17:00	19:00	21:00
日	開講式 OR	昼食	セッション①	夕食・入浴	セッション②	
12	9:00	12:00	13:00	17:00	19:00	21:00
日	朝食	セッション③	昼食	セッション④	夕食・入浴	セッション⑤
13	9:00	12:00	13:00	15:30	16:00	
日	朝食	セッション⑥	昼食	セッション⑦	閉講式	

- セッション①～③：アイスブレイク、ウォームアップ、イニシアティブ、ローエレメント等
- セッション④～⑦：以下のことを講義と演習により習得する
 - ・チャレンジバイチョイス、フルバリュー、being、などの考え方
 - ・ローエレメントの基本的ルール・使い方
 - ・グループを見る視点 (GRABBSS)
 - ・活動の分類とプログラムの組み立て

セッション①



14名の参加があり、午前中はアイスブレイクを中心にTAPを体験しました。午後からはイニシアティブ・ローエレメントを体験しました。



セッション②



夜は、グループの雰囲気を感じる時間とし、たくさんの笑いの中でコミュニケーションをとる機会をたくさん体験しました。その後、ふりかえりを行いました。

セッション③



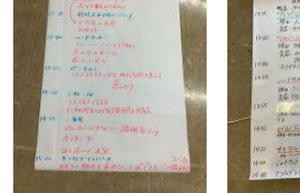
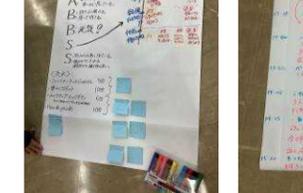
セッション③はコミュニケーションから信頼を意識した体験をしました。自分の身を仲間に任せることの難しさを体験しました。

セッション④⑤



午後からは、指導者(ファシリテーター)としてどのような考えの元、指導に当たるのかを学びました。

セッション⑥⑦



最終日は、ここまで学んだことを使って、実際に指導することを前提に、自分でアクティビティを組み立てました。その後、発表しお互いにフィードバックしました。

【参加者の声】

「理論を元に前やった体験を考えることができおもしろかった。」「同じ言葉でも説明する人、その時の自分の状況などによって腑に落ちる事、感じる事が違っていたので何回でも同じ内容で体験したいと感じました。」「負荷のかかるアクティビティも信頼関係ができたことでやってみようと思った気がする。チャレンジしようとする勇気がすごいと思った。どうしてそんな勇気が出たのだろうか。」

【成果と課題】

今回は、前半の「体験」と後半の「理論」を担当分けて実施した。その結果、参加者へその二つの意識の違いを伝えることができた。また、理論の担当が体験の時間を客観的に見ることができたことで、理論の説明に参加者の体験から得たものを踏まえて話をする事ができたと思う。

課題としては、質の担保が難しいと感じた。今回のようにこの事業の体験部分を担当したものが翌年の理論を担当するというステップを踏むことができれば可能だが、今以上に安定的に理論の引継ぎが行われるシステム構築が必要と感じた。

また、外部指導員の育成がこの事業の目的の一つだが、もっと積極的に外部指導員の育成に係る必要がある。